

## 三方崩山

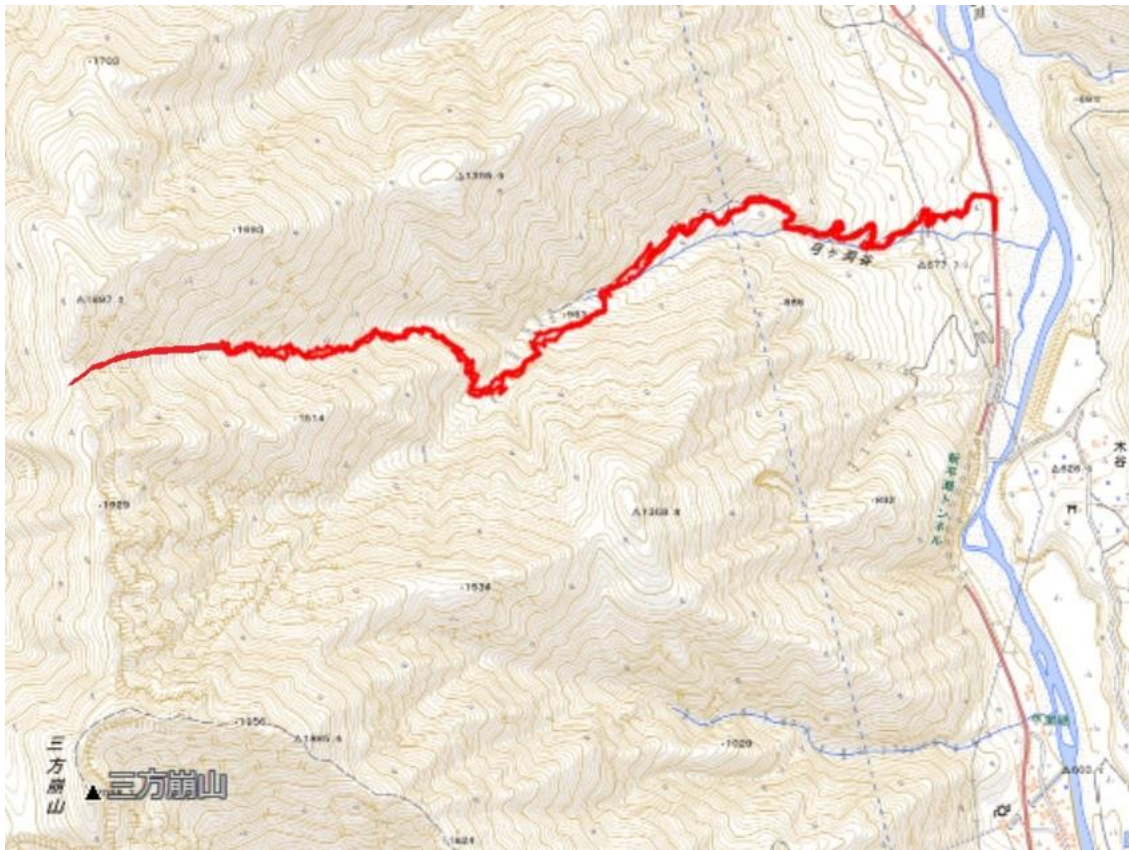
【日程】2021年4月3日（前夜発）

【エリア】飛騨山地

【形態】山スキー

【メンバー】Y、O

【報告】O、Y



《ルート／タイム》

4月4日 駐車地 07:10～渡渉点 08:30～尾根乗越 10:30～P1500 付近 (12:15)～  
～※P1850 稜線 (Yのみ)～駐車地 16:20

《報告》

前回の猿ヶ馬場山と同エリアの奥飛騨山地への山スキーとなった。

今年は3月から気温が上昇傾向にあり、桜の開花も4月第一週には葉桜になった場所も多い。

残雪の量が心配されたが、まさに春スキーといった雪質、気温の一日でした。

道の駅での仮眠をすませ、帰雲橋近くまで移動。林道から標高800m付近まではほとんど雪が残っていない状況なのでスキー板を担いで登る。やっかいなのは900m付近の渡渉地点。スノーブリッジが張り出しているが、抜け落ちの可能性もあるので慎重に歩く。

ここを超えると右俣、左俣の風景がぐっと目前に見えてくる。

当初は右俣をシールで登る予定だったが、近づいてみると気温の上昇で滝が見えている。藪漕ぎで乗り越している記録もあるようだが、慎重を期すため、左俣と右俣の間に張り出している尾根を乗り越して、滝の上部に降りることにする。



渡渉地点のスノーブリッジ (写真中央)

降り立った1130あたりからは稜線がはっきりみえている。あとはシールでただ登るのみだ。雪質はザラメであろうか。気温が高くアイゼンが入りにくい。

私は日ごろのトレーニング不足もあり1500m付近までで待機。稜線まで上がるYさんを待つことにした。



右俣から稜線を臨む。昼過ぎまでおおむね天気は晴れ。稜線から三方崩山はガスがかかっていた。

下山はこけても痛くない柔らかい雪質に対してターンを確実に決めながら滑走していく。前回登った帰雲山の西側の崩落斜面がはっきりと相対して見えていた。

【報告 Y】 1840m コル 13:35～13:50

Oさんはマイペースで登ることとし、私は1840mの稜線を目指すこととする。一直線の開けた谷なので、離れてもお互いの姿は目視できるので問題はない。しゃぶしゃぶの春雪はシールが利き難いためクトーも併用するが、上部ではスキーが滑って苦勞した。何とかシール登行で稜線に到着、西の白山の姿を期待したがあいにく雲がかかって見えず、東は猿ヶ馬場山だが山頂はこれも雲の中。稜線はアップダウンが多そうで、三方崩山頂までは時間がかかりそうであった。いよいよ待望の滑降に移る。出だしは急で、斜滑降すると表面10cmほどの雪が崩れて流れ出したがしばらくすると停止したのでこのまま滑降する。上部はデブリも少なく、谷は広いのでターンし易い。中盤からは傾斜も緩み、楽しく滑れた。



右俣下部には滝が出ていた



稜線近し



稜線に到着



猿ヶ馬場山方面には雲